

## 令和元年度 授業改善推進プラン

## 1 区学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を踏まえた課題

国語	<p>外国籍の生徒が多いことに加え、話す・聞く・書く・読む・言語事項の各領域で基礎的な力が身につけていない生徒が多い。毎時間の漢字プリントの実施や、毎時間必ず全員が音読する時間の確保など、基礎学力の向上を図ることが必要である。</p> <p>また、毎定期テストごとに課している記述式の課題に加え、授業中においても、決められた字数内で自分の考えを論理的に記述する機会を増やしていくことが必要であると考えます。</p>
社会	<p>外国籍生徒・小学校まで海外に居住していた生徒が多数在籍しており、基礎的な知識が完全に欠落している生徒が多い。また、日本語自体の理解が不十分な生徒も多く、教科内容に踏み込んでいけない。まず、生徒が教科内容に対する興味関心を持つ授業形態が必要であると考えます。</p>
数学	<p>数学を得意とする生徒、不得意とする生徒の二極化が目立つ。各学年、基礎の定着率が高いが、基礎を活用した問題が解けていない。各学年、数学的な技能の観点では、正答率が高いが、見方・考え方の正答率が低い。授業では、基礎基本の定着を図ると同時に、見方・考え方の問題を取り組ませる必要がある。</p>
理科	<p>区の学力調査では、全学年が区や全国平均を下回っている。基礎的な理解よりも、活用する力の方に課題が見られる。4領域で比べると、物理分野に若干の落ち込みが見られるが、差はほとんどない。4観点で比較しても、得意・不得意の差は見られない。よって、すべてにおいて同じように得点力が低いということが言える。学年内での正答率度数分布を見ると、1学年は下位層がなだらかな正規分布、2学年は二極化、3年は下位層に台地ができているような分布になっており、どの学年も多くの下位層が存在することがわかる。</p>
外国語	<p>英語を得意とする生徒と、苦手とする生徒の二極化が目立つ。毎時間単語や文章テストを取り入れ、基礎的・基本的な内容の定着を図ることが必要である。また、英文を読む力を伸ばすため、さまざまな英文を読む機会を設けることが必要であると考えます。表現力においては、英文を読み自分の意見を述べる、与えられた課題について自分の意見を述べる機会を設け、力を伸ばしたい。</p>